

# 十和田市事務事業評価シート

担当課名	商工労政課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	134	整理番号	26
基本目標	にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」		
施策の展開方向	雇用の安定		
事務事業名	高齢者就業機会確保事業		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	高齢者等の雇用の安定に関する法律
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	3	4	3
	人件費(千円)	108	144	108
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	14,254	13,129	12,903
うち一般財源	14,254	13,129	12,903
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	60歳以上の臨時的かつ短期的な就業を希望する高齢者
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	自らの経験と能力を生かし、希望に沿った就業機会を確保し、就業を通じて高齢者の生きがいの充実や社会参加の推進を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	シルバー人材センター運営費を補助する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	会員数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		人/年	586	551	580
	活動指標名	受注件数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		件/年	2,092	2,248	2,000
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名		会員数		
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		人/年	目標値 639	586	580
			実績値 586	551	
			達成度(%) 92%	94%	
	成果指標名		受注件数		
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		件/年	目標値 2,100	2,000	2,000
			実績値 2,092	2,248	
			達成度(%) 100%	112%	

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	26
計画No	134

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地   0 / 4  高年齢者の生きがいの充実や、社会参加の促進を図ることを目的とした事業展開をしていることから、地域内での事業の妥当性は十分にあると考える。	
	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地   1 / 6  今後、国の基準に基いた補助金の削減が進んでいくにあたり、事業運営の更なる安定のため、会員数及び独自事業収入の増加に努める必要がある。	
	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1	5	コスト削減の余地   1 / 6  会員数・受注件数など着実に成果を上げているものの、国の補助金の削減に伴い、市の補助金も削減の方向にある中、同センターの更なる自助努力等を図る必要がある。	
	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2			
	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4  全会員に対して、公平に受益されていることにより偏りもなく、見直しの必要もないと思われる。	
	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					18 / 20	<b>改善の余地</b>	2 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

**有効性を改善して継続**

方向性の理由

既存会員の能力に応じた就業開拓を維持しつつ、シルバー人材センターの会員及び受託事業収入・独自収入の増加に向けて、積極的に取り組むことが必要であるため。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

シルバー人材センターが担う役割の重要性について、地域内での理解と協力を得て事業の受注拡大を図るため、活動状況及び効果に係る周知を積極的に行う。